

にゅとぴあ 岸和田

岸和田市国際親善協会だより

ifa-きしわだ

English Open Café

No. 123

親しめるEOCへ

「世界の人たちと仲良くなる。いろいろな国の文化、宗教、政治、教育、生活…と触れ合おう。そして岸和田を、大阪を、日本を大好きになっていい思い出を持って帰ってもらおう。」との目的で2005年から始まったEnglish Open Café (EOC) は9月を除く毎月開催されております。

毎回、海外からのゲストを迎え、自国の紹介などのプレゼンテーション、そして自由に質問する時間があります。今までアフリカ、中央アジア、中東、中南米など全世界から51か国ものゲストが来てくれました。



の説明、気候、民族衣装、食事、祭り、観光地などはもちろんのこと、宗教や政治など普通はタブーのような話題もありますし、身近なところでは、交通事情ではバスが時刻表通りに来たためしがないこと、ヒンズー教徒は牛肉は食べないが牛乳は飲むとか、カナダには冬とそれ以外の気候しかないなど、参加して初めて知ることもしつ山あり、終わった時にはその国についての親近感が増し、ぜひ機会を作って訪問したい気持ちが高まります。

すべて英語での進行を前提としていますが、先日実施した出席者へのアンケートでは、英語の聞き取り・内容の理解度が9割以上の方が全体の16%、7割程度が35%で全体の半数以上が聞き取りできている一方2割以下の方も全体の25%おられました。今後はより親しみやすいEOCにするため、アンケート結果を踏まえ、より気軽に出席できるように後半のQ&Aでの質問は日本語でもOKとする予定です。

もちろん英語を通じての異文化、国際親善がEOCの設立目的の一つですが、ガイドブックでは到底知ることのできない、なかなか私達が訪れる機会のできない、日本から遥か遠くの国の方の話を直接聞くことができ、会が終わった時には友達となれるすばらしい交わりです。

英語の勉強の機会には現代社会にはいろいろありますが、生の英語を理解できるようになりたいというのも勿論EOCの目的の一つですが、一番の目標は私達日本人も含め第二言語としての英語を共通語として、各々の国の人に文化etc、背景を理解できるようにすることだと思っております。そのため時には日本語も交えてお互いに説明し合ってやって行きたいので、まだ来会されていない方々も是非のそいでみてください。

(EOC 企画委員会)



51 Presenters' Countries as of February, 2020 :

Afghanistan, Armenia, Australia, Azerbaijan, Bangladesh, Belgium, Brazil, Canada, Chile, China, Colombia, Comoros, Costa Rica, Dominica, Egypt, El Salvador, England, Ghana, Guyana, Haiti, Honduras, Hong Kong, Hungary, India, Indonesia, Jamaica, Japan, Kyrgyzstan, Kosovo, Laos, Liberia, Madagascar, Malaysia, Moldova, Maldives, Mongolia, Nepal, Netherlands, Nigeria, Northern Ireland, Pakistan, Philippine, Poland, Rumania, Saint Vicent & Grenadines, South Sudan, Spain, Sri Lanka, Taiwan, USA, Vietnam

初めて名前を聞く珍しい国もあり、どこにある国なのかまず地図で調べなければならないこともあります。

ゲストは国際交流基金関西交流センターで日本語を研修している各国若手外交官や JICA 大阪国際センターの研修生、高校の ALT や大阪在住や留学生などで、彼らがスピーチしてくれます。すべてのゲストの母国語が英語ではありませんが、プレゼンテーションを含め進行は英語で行われます。

プレゼンテーションの内容はゲストに大体お任せしているので、毎回いろいろな切り口での話を聞くことができます。その国の歴史、国旗



無料配布中

「にゅとぴあ岸和田」は世界の人びと、団体、都市との出会いを求め、ふれあいを大切にしたい親善・交流を通してお互いの連帯を深め、世界の平和と繁栄、人びとの幸福の増進のための貢献を目的とした、岸和田市国際親善協会の活動記録とメッセージの発行物です。



Since 1989

ifa-きしわだ

岸和田市国際親善協会



ifa-kishiwada.rinku.org



日本語研修 ホームビジット 受け入れ

関西国際センター 専門日本語研修 ホームビジット

12/16
(月)

《雪が見たいです!》

田尻町の関西国際センターで日本語勉強中の若手外交官の研修の一つに日本の家庭を訪問する「ホームビジット」のプログラムがあります。先日わが家に 3 名の外交官が訪問してくれました。サモア独立国とカンボジア王国の女性 2 名と赤道ギニア共和国の男性です。

サモアはラグビーで日本にもなじみ深い国ですし、カンボジアはアンコールワットでよく知られています。しかし、赤道ギニアは恥ずかしながら、世界地図でどこに位置するのかわかりませんでした。国名に赤道とついているからには赤道近くのはずと探してやっとアフリカ大陸の西海岸で見つけました。ホームビジットで海外の人を受け入れる最初の楽しみはこんなところにもあります。

さて、赤道ギニアはもちろん、サモアもカンボジアも日本に比べれば、赤道に近い国です。今年は暖冬とはいえ、彼らにとって日本の冬の印象はどうなのでしょう。



駅で待ち合わせ、お会いした時の薄着に少し驚き「寒くないですか?」と尋ねると、「大丈夫です」との返事。

まず、岸和田城のそばの五風荘の庭園に行った時の紅葉に驚き、「こんな赤や黄色の葉の木は見たことがない」とのこと。常に青々茂った木しか見たことがないのだから驚くのもわかります。

次に我が家の玄関に飾ってある雪をかぶった銀閣寺が描かれた手ぬぐいの額に驚き、異口同音に「雪が見たいです」

岸和田でもそんなに雪は降らなくなりましたが、彼らの日本での研修中に、一度くらい雪が降って積もれば、きっと防寒具を手に入れて、雪合戦や雪だるまを作ったり、そり遊びなど素晴らしい思い出となるでしょう。(内田 満弥)

12/17
(火)

《日本のおもちゃで歓迎》

コスタリカのカロリーナさんと、アンゴラのサンドラさんのお二人を自宅へお招きして我が家の子供と友達、また私が教えている英語教室の生徒達も一緒になって楽しく過ごしました。英語教室の子供には、「外国の人が来るので聞いてみたいことや紹介したいことがある子はぜひ来てね」と声をかけていましたが、ひとりの子は百人一首を持ってきてくれました。

夕食はおでんです。おでんのそれぞれ具材を説明し、また岸和田ではだんじり祭りの時によく食べる料理であることを伝えました。お箸を用意していたのですが、おでんを箸でつかむのは難しく、結局お二人ともフォークでおでんを食べました。

梅干しも食べたのですが、カロリーナさんは「もう一つで十分です」と言って酸っぱい顔したのが印象的でした。子供たちは梅干しが食べられなかったのですが、彼女たちが食べているのを見て、自分たちもチャレンジしようとしていました。

食事の後、折り紙で手裏剣とピョンピョンカエルを折りました。子供たちが日本語で手取り足取り、実際に折りながら説明しました。おふたりの国には折り紙はないようでしたがとても上手に折っていました。手裏剣は忍者の話



をしながら説明しましたが、彼女たちは忍者のことについて知っていました。

百人一首を 1 人一句ずつ読んでカルタをとりましたし、日本の昔のおもちゃのけん玉とお手玉でも遊びました。

あっと言う間に時間が過ぎてとても楽しい時間を過ごしましたが、このような交流を通じて自分の子供たちや近隣の子供たちが人と人のつながりを感じ取ってくれたことが、一番の良かったことです。(西田 美樹)

日本語サロン便り 春木市民センターサロン編



春木サロンは、春木市民センターで毎週水曜日、午後7時から8時半まで開いています。現在ボランティアスタッフ19名、学習者約52名が在籍しており、2部屋使用の教室はいつも活気に溢れています。

インドネシア、ベトナムからの技能実習生が多く、主に日本語能力試験 N3 や N4 合格を目指して勉強しています。また、公立学校へ通っている外国人の子どもも数名います。マンツーマンでの指導を基本としていますが、学習者のサロンに対するニーズが多岐にわたるため、人数がボランティアスタッフを上回ってしまった場合、マンツーマンでの対応が難しくなることもあります。

サロンは学びの場であるとともに交流の場でもある、という考えから、日本の文化や娯楽を少しでも楽しんでもらおうと、新年会、カラオケ、ボーリング大会などを行っています。そして、今年度は11月中旬にバーベキューをしました。当日は、おかげさまで天候にも恵まれ、雲ひとつない秋空のなか、和気あいあいとした時間を過ごしました。春木サロンは、学習したいという方たちを臨機応変に受け入れようというスタンスで、グループ学習



や自習なども取り入れ、ボランティアスタッフ一同で取り組んでいます。

近年は、公立学校に通う外国人の子どもたちが増加しており、教育現場における日本語学習のニーズが増えていきます。岸和田市国際親善協会においても、日本語指導補助員の登録を募っており、彼らに対するサポート体制を整備することが急務となっています。春木サロンでは、日本語指導補助員の登録者が数名おり、この取り組みに興味を持たれている方も多くいます。

日本語ボランティア養成講座を修了された皆様方、是非とも春木サロンへスタッフとしてご参加いただきますよう、心よりお待ちしております。（磯崎 大詩）

クラブ紹介 初級 英会話クラブ



初級英会話クラブの先生は、アメリカのケンタッキー州出身のブラッド・バートリーズさんです。日本人の奥様と3人のお子様達と共に岸和田市に住まれ、岸和田市の小学校でも英語を教えてお

られます。日本語もよく理解されておられ、流暢に話されます。

毎回授業の始まりは、全員一人一人に「How are you today?」と話しかけられ、5W1H の質問文で会話を進めていきます。時々難しい表現の時は日本語でも質問 OK です。英語で応えてくださいます。自分の近況などをスムーズに話せるようになるとても良い機会です。

先生は何時も、日本人は「How are you?」と話しかけても、直ぐに反応がなく、会話が続かないのが難点と言われていました。アメリカ人は話すことが大好きで、小さい時から色々会話をし、自分の意見を言う事になれているけど、日本人は文化の違いで、会話が少ないように思う。とにかく相手がお話しした事に対して、5W1H を使った文を考えて質問し、会話を続けられる様に頑張りましょうと、良く言われます。それで授業では、先生が用意してくださったテーマについて、3～4人のグループ分けをし、お互いに 5W1H を使って会話の練習を時々しています。



そして、プリントを使っでの学習もしています。プリントのテーマの中で、日本とアメリカの習慣・文化・環境などの違いも教えてくださいますので、アメリカとの違いを知ることが出来、とても役立ちます。

また先生は明るく、気さくなお人柄なので、何時も楽しく授業が進みます。時々英語を使ったゲームなども取り入れてくださいますので、初めて参加された方も直ぐに、和気藹藹と雰囲気になじんでしまいます。

いつでも授業の見学は OK なので、ご関心のある方は是非ご参加ください。（川崎 幸子）



しんがた
新型コロナウイルス (COVID-19) の
びょうき
病気について

事業部会

新型コロナウイルス について、(一財)自治体国際化協会が「やさしい日本語」で翻訳されているのでご紹介します。

しんがた びょうき
■新型コロナウイルスの 病気とは 何ですか。

2019年12月に中国の湖北省でみつかった新しいコロナウイルスが原因となる 病気です。ねつや せきが できる 病気です。肺炎になる 人も います。せきや くしゃみで 人へ うつります。

つぎ ひと きこくしゃ せつしよくしゃ そうだん
■次の人は「帰国者・接触者相談センター」へきいてください。

- ・せきや 37.5℃より 高い ねつが 4日より 長く つづく人 (高齢者や 病気が ある人は 2日)
- ・とても 体が つかれていたり、息が くるしい 人
センターの 人が 病院を 教えます。マスクをして、電車やバスを 使わないで 病院へ行ってください。

ぜんこく きこくしゃ せつしよくしゃ そうだん
全国の帰国者・接触者 相談センター：

https://www.mhlw.go.jp/stf/sesakunitsuite/bunyakenkou_iryuu/covid19-kikokushasessyokusha.html



びょうき き びょうき
■病気に ならないために 気をつけること・病気を
うつさないために 気をつけること

ねつが あるときは、学校や 会社を 休んでください



じぶん き
自分で 気をつけること

- ・外から 帰ったら 手を よく洗う
- ・外から 帰ったら うがいを する
- ・アルコールで 手を ふく
- ・人が たくさんいる ところへ 行かない

- ・ときどき 部屋の まどを あける
- ・よく 寝る
- ・バランスよく 食べ物を 食べる

せき・くしゃみが できる とき

- ・せき、くしゃみが できる ときは マスクを する
- ・(マスクがないとき) せき、くしゃみを するときは ティッシュや うでの うち側で する



しんがた じょうほう
新型コロナウイルスの いろいろな ことばの 情報

<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/info/contents/114517.php>



参考文献：(一財)自治体国際化協会



(つなみ)

国際交流の中で不可欠なのは外国語です。しかし、日本語は他の外国語と比べて、文字も文法も全く違う言語です。これが私たち日本人にとって外国語を学ぶ上で大きなハンディキャップとなっています。また古来から海に囲まれ外国文化に接する機会が少なかったことから、無意識のうちに外国語にコンプレックスを持つようになり、苦手意識を持つのは当然です。

このような背景のなかで、皆さんはどのようにして外国語に接し学習しているのか、苦労話や感じていることを自由に投稿していただきましょう。



エルムンドとはスペイン語で「世界」を意味します。国際化の時代にあわせ世界のカルチャーファッション、旅行、ライフスタイル等々がどんどん変わりつつあります。その中で皆さんが日常生活で感じたことを題材にとらわれず、自由に投稿していただくという趣旨のコラムです。



横綱土俵入り、何かおかしいぞ!

皆さん大相撲お好きでしょうか?その大相撲から最近気になっていることをひとつ。

ラグビーの日本代表チーム編成での外国出身選手の加入基準はかつての大英帝国時代のローカルルールが元になって今や世界基準になっています。この基準により先の第9回ワールドカップでの日本チームの外国出身選手は31人中約半数の15人を占め編成されていました。

ところで我が国の大相撲では日本文化、国技を維持するという名目で一部屋につき外国人は一人と定められています。相撲部屋は45部屋なので外国人力士は最大45人が限度。力士総数が約650人、10%にも満たしていません。しかしこうした少数の外国人力士なのに幕内の約半数がモンゴルをはじめとする外国人力士が占めているという状況です。外国人が強くなりすぎた。だから人数規制したのでは?とさえ勘繰りたくなりますよね。

それはそれとして最近横綱白鵬の土俵入りが少し気になっています。白鵬は不知火型の土俵入りをしています。(別に雲竜型の土俵入りもあり少し型が違います。)

横綱審議委員でもある、やくみつる氏も「白鵬の土俵入りは独善的で不知火型ではなくなっている。」と断じています。私も全く同感なんです。不知火型はセリ上がった時両手を広げますが、白鵬はその両手を一旦畳み込み再び勢いをつけて広げます。これって不知火型?国技を維持する、伝統を守るというなら横綱の土俵入りという角界を代表する所作も厳しく基本を大切にすべきではないだろうか。

ある親方(元横綱)が土俵入りは自由にやったらエエと言ったとか言わなかったとか?しかし私は外国人力士により相撲の伝統が少しずつ微妙に歪められていく事を危惧し小さな事ながら書いています。一体誰が白鵬に土俵入りを教えたんだら?後に続く力士がこれをマネると、正に何をかいわんやです。日本人・外国人を問わず力士を志す者には繰り返す相撲の起源、歴史、決まり等を徹底すると共に特に大銀杏を結う関取衆にはさらに厳しく。と大相撲ファンだから…… (桐原 喜彦)

Let's learn foreign language.

《外国人のためのだんじりインフォメーションセンターに参加して》

岸和田生まれの岸和田育ち、岸和田在住のわたしにとっては、やはりだんじり祭りは生きていくうえで、欠かせないものです。その祭りに関心を持ってわざわざ観光に来て下さる、しかも、海外の方々に以前から興味がありました。どのような雰囲気のものなのか、言葉の違いに問題はないのか等、岸和田くんたりまで来て下さる方々は、どのような方々なのか。わたしは、岸和田弁しか話せませんが、何の心配もありませんでした。訪ねて下さる方々は、楽しんでくださっていたと思います。嬉しかったです。わたしが一番はしゃいでいたかもしれません。本物の「foreign language」に触れたい、聴きたい、これだけの好奇心で参加させてもらいましたが、本当に楽しかったです。

たくさんの言語を聴くことができ、ぜひわたしももう少し会話になるような英語を話せるようになりたいと思っています。

もう一つ、何故英語かと申しますと、アメリカ人のパッチ・アダムスという方に会いたくて英語を学びたいのです。DR.アダムスは、笑い癒しを軸にした医療を目指している医師です。まだ、病院は完成途中ですが、頑張っておられます。わたしには、笑い癒しの治療を必要とする疾患もっているからです。いつかDR.パッチと英語で直接話しをしたいと思い、だんじりがご縁で参加させていただくことになるとは、夢のようです。(伊藤 適恵)

《目覚めよ 習得熱》

マンマ・ミーヤ、10年以上前から人気のミュージカルタイトルであるが、つい最近その意味を知った。イタリア語で《なんてこった》。知った時の心境はまさにその通り、NHK Eテレに教えてもらって感謝である。

思えば小学生の頃、母に向かってこう言ったことを今でもはっきり覚えている。わたし、国際会議みたいな大事な会議に日本代表で出る、そんな仕事につくわ。将来は外国人と結婚して日本にはあまり帰って来ない。お母さんには寂しい思いさせるけど、そうするから。その後、目的に向かってGoということもなく、日本に居ればなしの人生ではあったけれど、ここ最近、覚醒し始めた。語学は1つだけに集中せず、何か国が同時にすれば相乗効果で上達する、という裏技を仕入れ、じゃあということで、旅するイタリア語、旅するフランス語、スペイン語もドイツ語も、と欲張りおばさん状態。テキストは購入せず、ノートも使わずもっぱらスマホメモ帳に記入、しかもカタカナ記入である。セトレボン すごく美味しい、ポナベッティ召し上がれ、そんな調子である。フランスの風景と言葉のやり取りを楽しみ的確な解説もしてくれる。あちこち旅をしている気分にしぼし浸ることができる。昨夜はすごいことを発見した。牛が遊ぶ広い草原で、ケ エスペクタクラ、とスペイン語。そのスペルが英語のスペキュタキュラにeが付いているだけ。ゲルマン語が元なのか、その点日本語は独自の発展だなぁと気づく。聖書を開くと、全地は元々一つの言葉であったが、ノア方舟の後レンガや瀝青の発明で、高い塔を作り天に近づこうと思いが上がった人間へのお仕置きで、神が言葉を混乱させ互いに意思疎通できないようにされた、とのこと。なるほど、その罰が無ければ、どこの国の人も話せたわけだが、かえって異文化へも憧れやコミュニケーションを取りたいと意欲を掻き立てることになる。ともあれ言葉に加えて、相手を思いやる気持ちがなければ理解することはできない。言葉は道具、本当のところは相手への興味 探求心、キュアリオシティなのだ、と70を手前にして思っている。外国語万歳、これからも教えてください。(田村志津子)

12/21 Samantha Murphy さん
(土) (カナダ)

12月は、カナダの小さな町、ドーソンクリークから来られた 23 歳の笑顔のかわいらしい Samantha Murphy さんがゲストでした。

4月のゲスト、Sue さんの帝塚山学院大学の教え子で、高校を卒業してから携帯電話の会社で働いてお金をため、大学に入学した頑張り屋さんです。9月に来たばかりですが、すでに片言の日本語を話されていました。カナダでは日本語を学ぶ機会がありませんが、日本のドラマやアニメ、歌に興味を持ち、「千と千尋の神隠し」や「きゃりーぱみゅぱみゅ」さんの歌詞で日本語を学んだそうです。現在は漢字に興味があり、学ばれています。「絵を描いているよう」で面白いそうです。カナダと日本の高校の校則の違いやクリスマスホリデー



の過ごし方の違いに驚いた話や、冬は-50度になるドーソンクリークのお話等を聞かせていただきました。

Samantha さんの腕にはゲームの好きな彼女らしく、あるゲームからの剣のタトゥーが描かれていたのですが、高校の80%の人が施しているそうです。お父さんもされていて、親戚の人が亡くなったりすると、その人を偲んで記念に彫ったりするとのことでした。お国が変われば文化も違うんですね。

後半は輪になって Q&A のコーナーがあり、終始和やかなムードでした。(玉置 十詩)

1/18 Katherine Candray さん
(土) (エルサルバドル)

今年最初のゲストはエルサルバドルの臨床医キャサリンさん。まずは祖国について。

中米の小さな国で人口は約 630 万人、その 80%はカソリック信者であり祝日やお祭りもキリスト教徒のものが多いそうです。なかでもホーリーウィークと呼ばれる祝祭ではカラフルな塩で地面に花などを描き、翌朝その絵が崩れていけば神さまが通った印だとされているそうです。食文化のお話ではトウモロコシが主食からスイーツまで様々に加工され写真で紹介されました。どれも美味しそうです。半面、貧困率の高さや治安が悪いなどの問題点も率直に話され、彼女の飾らない人柄がうかがわれました。

現在彼女は JICA の全面的な支援を受け、天王寺の



市大病院で中南米固有のシャーガス病(興味のある方はググって下さい。とても恐ろしい病気です)について、チームの一員として3年半の予定で研究中です。祖国での臨床経験をかわれてのことですが、ラボでの研究経験がほぼないので勉強中ですよとおっしゃっていました。

Q&A では祖国の交通事情について質問があり、電車が全くないので来日して電車での移動が大変だったことや、現地ではバスが来ない、停まってくれない、ボラれるなど色々大変な様子をユーモラスに話され、チャーミングな彼女に魅了されました。(梶谷 美加)

2/21 Usha Mahat さん
(土) (ネパール)

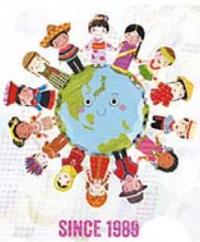
Ms. Mahat's talk was really informative. Everyone received a short but wonderful course in Nepali history and culture with powerpoint presentation. Wearing a sari added to the atmosphere, and her English was pleasant to listen to. Furthermore, she is a university English teacher at a Japanese University. For me, it was a personal blessing, having spent 1971-75 in Nepal. As she spoke, images from almost 50 years ago filled my mind. I could almost taste the food projected on the screen, wear the men's clothing and happily move about by rickshaw or on foot.



マハトゥさんのお話は耳寄りな情報がいっぱいでした。ネパールの歴史や文化のすばらしいコースをパワーポイントで見れました。彼女は日本の大学で教えておられるせいかとても聞きやすい英語でした。話題に出たリクショーは、主人(Burton)に聞くと人力車と言っていましたが、自転車でお客さんを乗せて引っ張っているのをテレビで見たことがあります。私自身ネパールに住んでいた事もあり、昔のことをいろいろ思い出し感謝すべきひとときでした。(Mr. & Mrs. Burton Bialek)

《大物映画俳優・監督との国際交流》

国際交流



昨年9月15日、岸和田だんじり祭りでは当協会が毎年開設している「外国人のためのだんじりインフォメーションセンター/DIC」を、大物俳優“らしき”人物が相前後して訪問した。

Are you the famous actor appeared in “Back to the Future/Harry Potter” ? – Sure I am.

だんじりの説明や記念写真のあと、メールアドレスも交換して、後日写真を送る約束をした。ところが他のスタッフから「あの人たちはUSJ」のイベントに出演しているだけ」という情報があり、私の聞き間違いかなという落胆と興奮が一挙に冷めてしまった。アドレス行方不明で写真も送れずのまま3か月経過後、DIC 来訪時の感謝と写真の督促メールが突然来た。何度かのメールを交換しているうちに、彼らが正真正銘の大物俳優であることがわかった。

“Back to the Future Part1(1985)”, George McFly 役、Crispin Glover さん、“Harry Potter and Prisoner of Azkaban (2004)”, Sirius Black 役、Gary Oldman さん、“Harry Potter and the Goblet of Fire(2005)”, Lord Voldemort 役、Ralph Fiennes さん。

更に驚いたことに東京五輪の記録映画監督である河瀬直美さんとも交流があることも判明した。3年前、河瀬さん制作、世界的に有名なカストロ・キンテラ監督、ハンナ・マクギル俳優兼美術監督と共に、日本の東吉野を舞台にした映画「東の狼」に不肖私も脚本翻訳者としてロケに立ち会ったり、披露映画祭でレッドカーペットセレモニーへの参画の荣誉を与えられた旨を伝えると、“You are also in the same film world as us/あなたも私たちと同じ映画製作の世界にいる”と祝福の言葉をいただいた。そして今年もスケジュールが合えば、ぜひ岸和田だんじり祭りを見に行きたいとのことですが、単なるリップサービスでないことを願っています。

世界的に有名な俳優、監督さんたちとの国際交流の機会を持てたことを大変光栄に思っています。

(塩屋 裕)



Crispin Gloverさん



Ralph Fiennes さん(左) Gary Oldmanさん(右)



河瀬直美さん(中)ハンナ・マクギルさん(右)

地球家族

《声》



自宅に電話した時、電話に出たのが家内なのかふたりの娘のどちらなのかかわからない事がよくあります。3人とも顔はそれほど似ていないのに、受話器から聞こえてくる声はとても似ています。

松本清張の短編「声」は数百人の声を聞き分けられるすばらしい聴覚の持ち主の電話交換手が主人公です。その聞き分けられる能力が災いして事件に巻き込まれてしまう話です。

一方、オレオレ詐欺は犯人の声を自分の息子の声と間違えて、老人が事件に巻き込まれています。犯人の声と自分の息子の声を聞き間違うには、犯人の巧妙な話術や老人の狼狽が重なっていると思いますが、年齢とともに聴覚が衰えているのも一因だと思われます。「耳が遠い」とは大きな音でないと聞こえない人を指しますが、老人は音域や音色の聞き分けの能力も衰えているのです。

テレビの番組で、十数か国語を流暢に話す東大生を見たことがあります。単語を覚える能力や、文法を理解する語学力が優れているのはもちろんなのでしょうが、聴覚が優れていなければ、相手の話している言葉が聞き分けられないし、その音を自分の口から発音することができないと思います。

いまだに「R」と「L」の聞き分けと発音ができず、英語もままならない者が今から前述の東大生のように数か国語を話すなどは夢のような話です。

家族3人を聞き分けられない位がオレオレ詐欺にかからないためには、ちょうど良いのかもしれない。(内田 満弥)



岸和田に暮らして...

かつては外国の街、岸和田も、住めば都となり今は自分が暮らす我が街岸和田。そんな国際色豊かな ifa-きしわだの心強いサポーターでもある皆さんに、自分史や岸和田での暮らしについてお話いただいています。



KISHIWADA
第30回



第30回は
アリス フジタさん(フィリピン)



フィリピン・マニラ生まれのアリスフジタさんは、岸和田出身の御主人と31年前に結婚、ご主人のお仕事の関係でマニラ、バンコックをはじめ日本各地にも住んだ経験がありますが、11年前からご主人の故郷である岸和田で暮らしています。

二人の息子さんと愛犬と生活していますが、息子さんたちは海外で育ったため、英語、タガログ語、タイ語もちろん日本語が話せますが、家庭内では、ご夫婦の会話は英語、アリスさんと長男との会話はタガログ語、アリスさんから次男へは英語、次男からアリスさんへは日本語、ご主人と息子さんたちの会話は日本語だそうです。

「4人の時の会話は何ですか?」との質問に対し「チャンポンです」と即答してくれました。

「岸和田に暮らして一番気に入っていることは何ですか?」の質問にはこれも即答で「ダンジリ!!」。さすがにハッピーを着てダンジリを曳くことはないけれど、ご婦人方がダンジリの後ろについて走る時の町のTシャツは持っているそうです。

岸和田のイメージはダンジリ祭りの印象が強いので、「荒っぽい」(彼女はstrongという言葉を使いました)と思われており、日本の友人たちに「岸和田に住んでいる」というと「えーっ」とちょっとひかれることが残念とのこと。

アリスさんに「岸和田のいいところをいくつか紹

介してください」と聞いかけると「お城」「カンカン」、そして「葛城山」とこれも即答。

「お城」と「カンカン」は歩いてもすぐ近い距離なのに、一方は歴史を感じることでできる落ち着いた雰囲気、一方「カンカン」一帯はショッピングやジム・ヨガなどの施設がありとても便利なお気に入りとのこと。また、岸和田には海だけでなく登山もできる葛城山もすぐ近くにあるなど、大阪市のような大都市では味わえないコンパクトなちょうどよい大きさの街と話してくれました。

「岸和田の食べ物で好きなものは?」には「お好み焼き!」とこれも即答。具体的に岸和田駅下がりある古くからある2軒のお好み焼き屋さんの名前を挙げてくれました。このお店のことを岸和田の友人がアリスさんに説明してくれた時のエピソードを最後に聞かせてくれました。友人が「駅



世界遺産 サン・アグスティン教会

下がりのきいたないお好み焼き屋」と言った言葉がとてもショックだった。「きたない」=「不潔」との日本語がまず浮かんだそうです。後でお店に行ってみて、「古い」とか「おしやれではない」ことを言っているのがわかった。日本語は難しい。

ご主人もインタビューに同席いただき、アリスさんが答えてくれている間、優しい眼差しで見守っておられたのがとても印象的でした。アリスさんが故郷のフィリピンを離れ、岸和田に暮し、そして岸和田を愛しているのは、ご主人の大きな抱擁力があからだと感じました。(内田満弥)



リサール公園



世界3大夕日 マニラ湾

Information

■2020年度総会

【と き】 4月18日(土) 14:00~
【と ころ】 南海浪切ホール 4階 交流ホール
*詳しくはチラシをご覧ください

■「第15期日本語ボランティア養成講座(初級)」講座生募集

外国人に日本語学習の支援をします。
【と き】 2020.5月~12月の木曜日
19:00~20:30 (21講座)
【と ころ】 市立職員会館 2階 大会議室
【対 象】 2年間の講座修了後日本語サロンでボランティアとして活動される方の年齢・資格・外国語能力は問いません。
受講料無料、テキスト代実費、協会へ入会(年会費2千円)
【開設説明会】 4月23日(木) 19:00~
市立職員会館 2階 大会議室
出席できない方は、申込時申し出ください

■English Open Café

各国からのゲストをお招きし、英語でプレゼンをしていただき交流を図ります。
【と き】 9月以外の第3土曜日 13:30~15:30
2020年4月は実施日変更
4月25日(土) 13:30~15:30
【と ころ】 マドカホール 3F 視聴覚室
*しばらくの間は申込制とし、先着20名まで事務局で受付します。

にゅとびあ岸和田 No.123

編集担当: 内田満弥・大塚 洋・塩屋 裕・西村紀子
お問い合わせや感想などは事務局まで

TEL&FAX (072) 457-9694

https://ifa-kishiwada.rinku.org/ メール ☒ kokusai@sensyu.ne.jp

